

# まんがで読む『八犬伝』『四谷怪談』雨月物語

## 板坂ゼミ生 古典入門書編集に協力



▲ 左から後藤さん、星川さん、山口さん

文学部・板坂ゼミの学生3人が、江戸時代後期の原作を基にした古典入門書の編集に協力した。小学4～6年生向けの『まんがで読む南総里見八犬伝』と『まんがで読む四谷怪談』雨月物語』(学研教育出版)で、描写やキャラクターデザインについて出版社に感想や希望を伝え、原作の魅力が伝わる内容に仕上がった。

協力したのは星川彩佳さん、山口夏実さん、後藤楓生さん(いずれも3年次)。2冊を監修する板坂則子教授(江戸戯作文学)の呼びかけに応え、昨年12月から約半年間、板坂教授を通じて編集者となり取り扱った。

『八犬伝』のまんが版は、曲亭馬琴の原作ではなかった物語導入部のヒロイン、伏姫が自害する場面は「八犬士の由来を示す重要な見せ場」と働きかけた。一方で、まんがの伏姫に「犬耳」を付けることには「かわいー」と賛成した。

まんが版『四谷怪談』雨月物語は、鶴屋南北の歌舞伎脚本『東海道四谷怪談』と上田秋成の怪異小説『雨月物語』の2作品を併載する。

昨年度の板坂ゼミで『四谷怪談』について研究発表した星川さんは、ページ数との兼ね合いに悩んだ。「本筋ではないが大きな意味を持つ」と

犬士の犬親兵衛を中心にした話が進む。原作の筋立てを大胆に整理した構成で、「読者と同年頃の親兵衛を主人公にして親しみやすさをねらったよいうです」と山口さんは説明する。

3人の役目は「原作に近づける調整作業が多かった」(後藤さん)。当初はなかった物語導入部のヒロイン、伏姫が自害する場面は「八犬士の由来を示す重要な見せ場」と働きかけた。一方で、まんがの伏姫に「犬耳」を付けることには「かわいー」と賛成した。



▲ 旧生田第1体育寮で救助訓練の様子

6月9日、旧生田第1体育寮(生田キャンパス)の旧大矢根淳教授とゼミ生5人が見学、災害時の連携を確認した。写真。今春、生田第1体育寮・生田第2体育寮が完成したのに伴い、旧生田第1体育寮は取り壊しが予定されている。5月中旬から約1カ月間、多摩消防署が建物の壁を壊し床に穴を開ける破壊訓練や救助訓練などを23回にわたって行った。

当日はその一

意見を受け入れてくれたので、真剣に勉強して取り組んだ。「みんな協力しながら作り上げていく面白さを実感した」と話している。

### 旧生田第1体育寮で救助訓練 大矢根ゼミ生 災害時の連携を確認

環。消防車2台と署員7人が来学。同寮の2階から出火したと想定、ホースを延長し放水のための準備を行った。さらに外からハンゴをかけた。館内に取り残された要救助者を署員がロープで地上まで降ろした。この間約20分。署員は声をかけ合いながら訓練を行った。

大矢根ゼミ生は、訓練の様子を撮影し、メモを取りながら熱心に見学。質問を寄せていた。訓練後は全員同寮に入り、現場で被災者をご

『八犬伝』は5月22日に、『四谷怪談』雨月物語』は7月14日に発売。いずれも税込込み1404円。史料や解説も充実している。

のように救助するかなど署員の解説を聞いた。消防士志望という金丸隆史さん(4年次)は「こうした状況での救助訓練を見学するのは初めて。参考になることばかりだった。」

また、専修大学ボランティア推進委員会傘下団体SIV(専修生田ボラティア)の前代表でキャンパスでの避難訓練を経験してきた齋藤郁さん(同)は、「署員の方は声をしっかり出して確認し合っていた。非常に大事だと実感した。」

大矢根教授は「解体予定の建物を活用した訓練は、実災害に近い環境を実現した。建物破壊訓練や本日の救助訓練はふだん体験できない貴重なもの」と話す。

最終日の6月13日には地元の町会と同寮の合同訓練が行われた。

プロ時代は故障に悩まされたが中継ぎ投手として10年間活躍。引退後も「野球愛」は衰えず、地元兵庫などで少年野球チームの監督を担い、98年には「神戸中央リトルシニアチーム」を全日本選手権で優勝に導き、神戸球場で再度日本一に。全日本で専大は準々決勝まで進んだものの、優勝した早大に僅差で敗れた。12面に記事。芝池さんは「この次がある。来年は日本一を目指して」とエールを送った。

専大クン、大学3年生の夏を迎えて、来し氣を取り直して「目標」持って勉強しようと思っただ。大学生の間に多くの人と知り合おうと思っただ。自分「自己紹介」も工夫するようになった。いろいろな人と話そうにこれから何を考えたいかと思っただ。

「友だち」でできる心配で、気が合わなくてもつるんでたっけ。だんだん行動範囲が広がって、ちょっとトリアルも。親に、「あんたは「大丈夫?」なんていわれるとドキッとしたこともあった。秋」に大友だちを心配した。そんな時に「恋」をした。実らない思いは自分につかたけど、少しずつ

学生相談室の「リーフレット」

「大丈夫?」なんていわれるとドキッとしたこともあった。秋」に大友だちを心配した。そんな時に「恋」をした。実らない思いは自分につかたけど、少しずつ

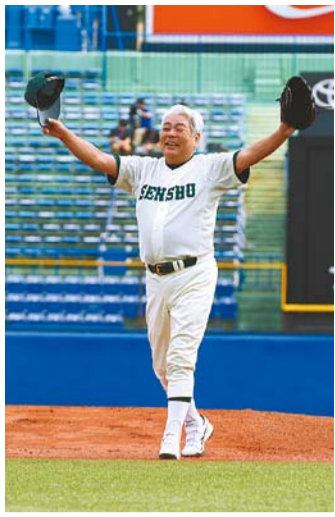
学生相談室では大学生活に身近なテーマでリーフレットを発行しています。「は既刊の、『はこれから出るタイトルです。相談室前にバックナンバーがそろっています。手に取ってご覧ください。ポータルサイトのライブラリでも見られます。」(学生相談室)

自分「自己紹介」も工夫するようになった。いろいろな人と話そうにこれから何を考えたいかと思っただ。

### 東都のレジェンド後輩を激励

専大野球部元エース芝池博明さん

「全日本」の始球式に登板



26年ぶり東都大学野球「優勝の専大が大学日本一」球選手権大会の始球式

芝池さんは1965年、1年次生ながら東都観客の拍手に笑顔の芝池さん

6月8日に、専大野球部の元エース・芝池博明さん(昭44商)が登板。見事な投球で神宮球場での開幕戦を飾り、選手を激励した。

芝池さんは1965年、1年次生ながら東都観客の拍手に笑顔の芝池さん

プロ時代は故障に悩まされたが中継ぎ投手として10年間活躍。引退後も「野球愛」は衰えず、地元兵庫などで少年野球チームの監督を担い、98年には「神戸中央リトルシニアチーム」を全日本選手権で優勝に導き、神戸球場で再度日本一に。全日本で専大は準々決勝まで進んだものの、優勝した早大に僅差で敗れた。12面に記事。芝池さんは「この次がある。来年は日本一を目指して」とエールを送った。

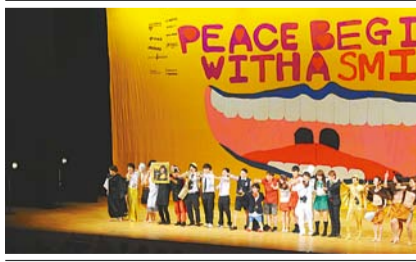


▲ 車掌にふんした学生が説明(鉄道研究会)



▲ お点前を披露(茶道文化研究会)

文化系サークルが日ごの成果を披露する第49回「黒門祭」が6月26日から28日まで、生田キャンパスで開催された。作品展や研究発表・報告品展示などが行われた。演奏会などが行われた。鉄道研究会は写真や資料の展示に加え、巨大なジオラマを制作して鉄道模型を走らせ、来場者の関心を集めた。また、第3学生自治会館の和室では、茶道文化研究会による「黒門祭茶会」が催され、学内外から招いたお



▲ 笑い興奮沸く(第48回青衿祭)

連合県人会(以下、連県)が新入生を歓迎する「第48回青衿祭」が6月6日、座間市立市民文化会館で開催された。連県の新入会員、学生、一般の方ら約400人が来場。連県有志によるアトラクションも写真IIと沖繩出身のバンド「かりゆし58」によるゲストライブが行われ、会場は笑い興奮に包まれた。

山本泰平実行委員長(経済4)は「1年次生の頑張りもあり、実行委員全員が一丸となって、無事に成功させることができました。ゲストが『青衿祭』という言葉は何度も使って会場を沸かせてくださり、例年以上の盛り上がりを見せました」と振り返った。

「かりゆし58」に笑い興奮沸く

第48回青衿祭

健康フラッシュ

「大丈夫?」なんていわれるとドキッとしたこともあった。秋」に大友だちを心配した。そんな時に「恋」をした。実らない思いは自分につかたけど、少しずつ